



地にひそむ生命を腕に

令和7年度 佐伯市立昭和中学校 学校通信

NO.06

令和7年9月25日

文責:校長 川野 匡



令和7年度後期生徒総会「百花繚乱」!

9月9日(火)の午後、ランチルームで本校後期生徒総会が開かれました。

7月の生徒会役員選挙で選出された生徒会長福泉蓮介さん、副会長岩田ちはるさん、仲谷一晟さん、船石華心さん、富永 耀介さん、書記柳井悠希さんら執行部が掲げた今期のスローガンは「百花繚乱」です。この言葉には、「昭和中学校生徒全員がその才能や個性を開花できるようにしたい。さらにお互いを助け合いながら高めあってほしい」という願いが込められています。

新執行部はじめ各専門委員会には、自主的な活動がさかんな伝統を受け継ぎ、さらに発展、充実していくよう



私はもとより、全校生徒から大きな期待が寄せられています。

1年カヌー体験・3年SUP体験

1学期に引き続き、リバーフェスタの一環として、1年生は番匠川でのカヌー体験を、3年生は井崎川でSUP体験を行いました。

カヌー体験は、2人1組で初めてのカヌーに挑戦し、後半は学級対抗リレーで大いに盛り上がりました。

SUP体験は、もともと井崎川から番匠川まで出る予定でしたが、悪天候のため順延。日程調整の関係で、いつもの井崎川でのんびり楽しむことになりました。今回も、「番匠おさかな館」の黒丸さんと、羽當さんが指導して下さいました。



1学期学校評価結果について

この度、令和7年度1学期の学校評価(生徒、保護者、教職員)の結果がまとまりました。本校の教育目標「ふるさとを愛し、豊かに関わり高め合う、健やかで自立した生徒の育成」の実現に向けた取り組みについて、皆様より概ね良好な評価をいただきました。

1. 成果:「自主性」と「説明する力」の伸長

本校が育成を目指す資質能力である「説明する力」に関連する項目で、生徒は高い自己評価を示しました。

生徒の「資料・問題文から情報の読み取り、取り出しができた」という肯定的回答は94%に達しました。

また、「授業中、工夫して先生や他の人に説明することができた」という肯定的回答も90%でした。

教職員による評価では、生徒がこれらの力を身につけられるようになったとする回答は100%に達しており、授業中に「教え合い」「伝え合い」の場を設けるなど、研究活動の成果が表れています。

「学校が楽しい」と回答した生徒は97%に達し、「仲間と関わりを深めることができた」という回答も97%と非常に高く、生徒同士の連帯感が深まっています。生徒会による対面式・歓迎遠足や七夕企画など、主体的な活動が活発でした。

「自分がいつ、いじめのターゲットになってしまうか、不安を感じることがありますか」に対し、92%の生徒が肯定的回答をしており、生徒が抱える不安は比較的低い水準にあります。hyperQU調査における学級満足群の生徒割合は目標(75%以上)に対し67%でした。引き続き、生活アンケートや教育相談(チャンス相談)、人間関係づくりプログラムを徹底し、安心できる居場所づくりに努めます。

また、地域連携活動(生姜植え付け体験、SUP体験など)を通じて、「ふるさと弥生が好き」という肯定的回答も96%でした。

2. 課題:生活習慣とキャリア意識の定着

教育目標の柱である「健やかで自立した生徒の育成」の基盤となる生活習慣やキャリア意識には、引き続き注力が必要です。

生活習慣の課題:「自分で決めた生活習慣(睡眠時間目安7時間以上)が身についた」という肯定的回答は75%でした。中高生に必要な理想的な睡眠時間は8時間から10時間とされており、生徒の平均睡眠時間(6月調査で7時間)は十分ではありません。

読書習慣:「30分以上」読書をする生徒は39%に留まりました。

夢や目標:「将来の夢や目標をもっている」という生徒の肯定的回答は78%でしたが、保護者調査では58%と低い結果となりました。職場体験や職業講話などのキャリア教育を通じて、保護者の皆様とも連携し、夢の具体化を支援してまいります。

1学期の成果を糧に、2学期は未達の課題に対し具体的な取り組みを徹底し、教育目標の達成を目指します。何度も言いますが、「楽しんでる者には勝てません」。生徒一人ひとりが活動にのめり込み、「新しい、今より素敵な自分との出会い」を迎えられるよう、職員一同支援してまいります。